

『ことばハンター』 を読んで

時々「日本語どんぶらこ」を読んでいるので、この本を身近に感じた。

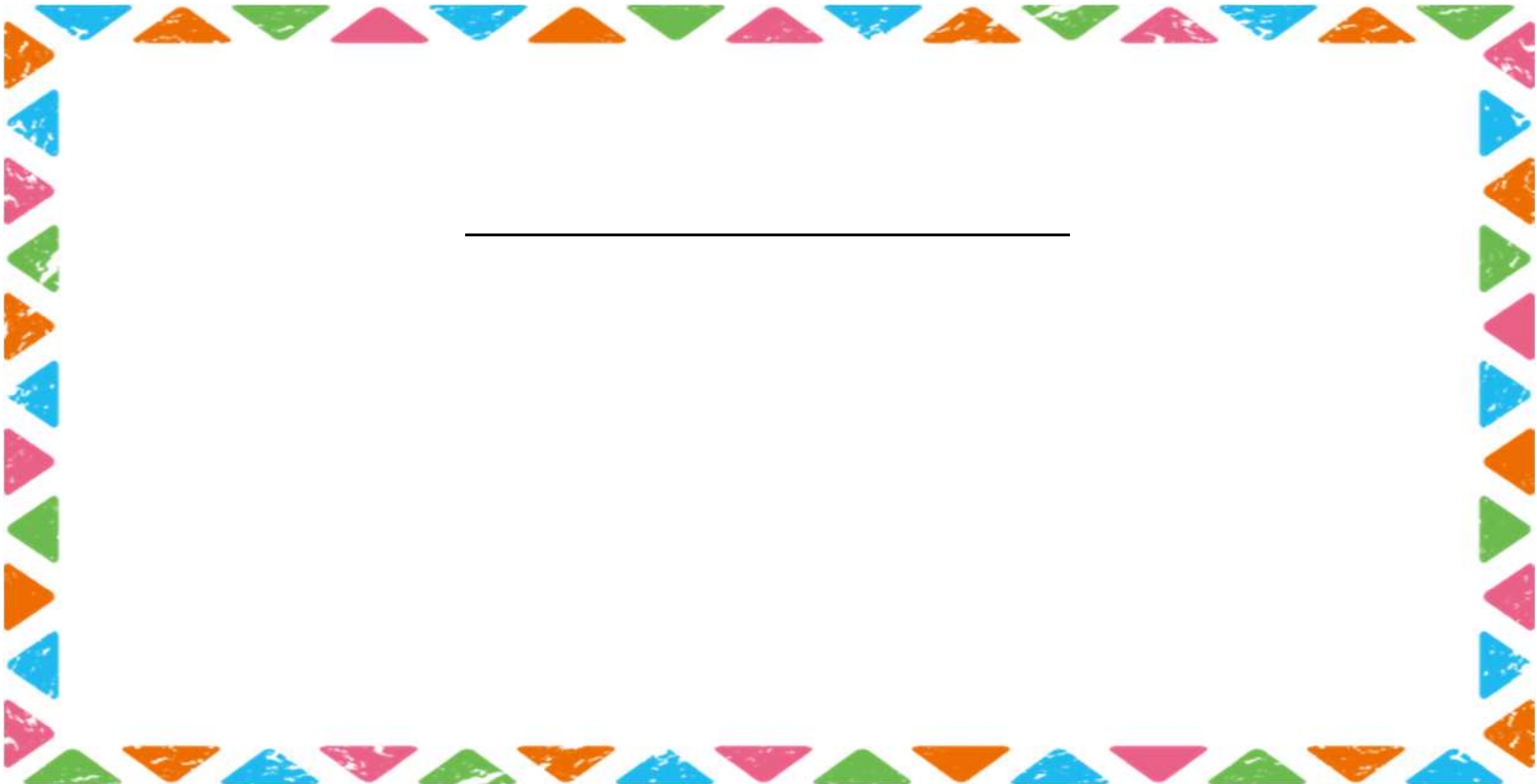
辞書作りが思っていたよりも大変で、びっくりした。

昔古来の「言葉」を守ると共に、

新しい「言葉」を見つけることも大切なんだなと思った。

たくま

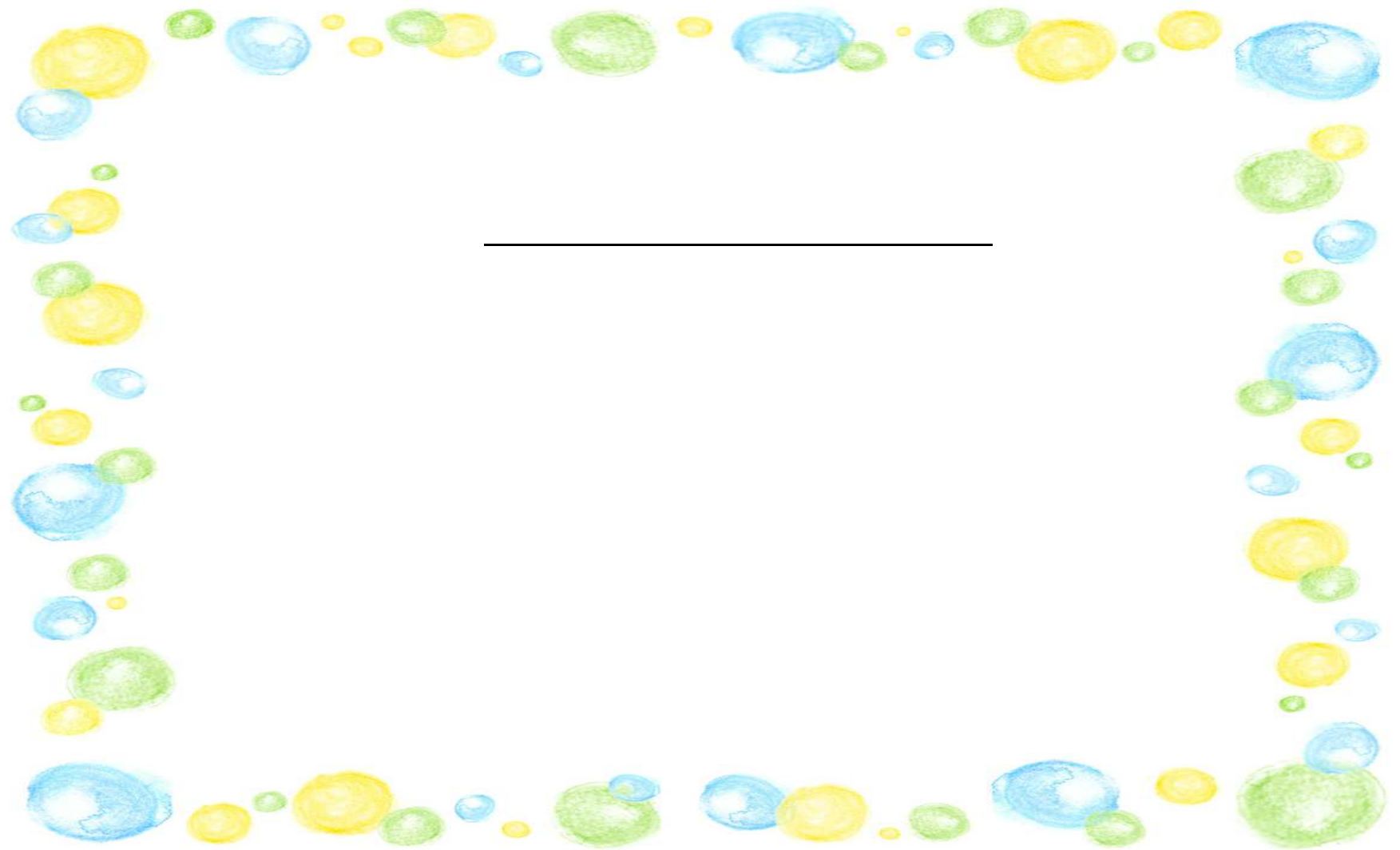




『ことばハンター』 を読んで

国語辞典の編集のために、街に出ても家にいても、  
ワードハンティングをしているということにおどろきました。

みき



『ことばハンター』を読んで

国語辞典を作るのに、そんな手間ひまをかけていることを知って  
おどろきました。ワードハンティングなど、  
毎日国語辞典にふれているところが、本でみて  
少し楽しそうにみえて、わたしも作ってみたいくなりました。

こと

『ことばハンター』 を読んで

たまにしか使わない国語辞典。

でも実は、たくさんの人が何年もかけている (@o@)

知らなかった国語辞典のひみつがもりだくさん!!

私はこの本を読んで、もっと国語辞典で調べたくなりました。

ひまり

## 『人見絹枝』を読んで

テレビで「いだてん」を見ているので、読みやすかった。

ドラマのシーンが思い出され、じーんとくるものがあった。

800メートルに挑戦した時の絹枝への重圧は相当なものだったと思う。

絹枝のような信念を強く持った生き方、真似したいと思った。

(なかなかできないけど。)

たくま

## 『人見絹枝』を読んで

人見さんが陸上に全てをささげたことを知って、すごいなと思いました。

日本人初の女せい選手でアムルテルダム・オリンピックに

女一人で行って、とてもさみしかったと思います。

あきらめない人見さんを、わたしはそんけいしています。

こと

『竜之介先生、走る!』 を読んで

大きな地しんがあったところで、「動物といっしょじゃ、だめ」や  
「外へだしとけ」といっしょにくらす事をきよひされた人と動物や、  
まいごになった動物をすくい、病院ですごさせてあげたり、  
しんさつしたりしてあげた、感動的なじゅう医の話です。  
わたしは、ペットとかい主を病院ですごさせてあげたことに、  
とくに感動しました。ぜひよんでみて下さい。

まよ

『竜之介先生、走る!』 を読んで

私はつい最近、熊本じしんが起きたことを、この本を読んで初めて知りました。私はじしんがとてもこわいです。

竜之介先生は、自分がやっている動物病院を、動物を飼っている飼い主さんが来られるようにしていたところがすごいと思いました。

熊本じしんは、何回も何回も来ては、大きくゆれていました。

動物も人間も、みんなとてもこわかったと思います。

私は自分の体でじしんにあった経験がありません。

でも、じしんはとてもこわいのだろうと思います。

今まで何回もじしんが来て、たくさんの人や動物たちが

死んだのを聞いたり、この本で知ったりしました。

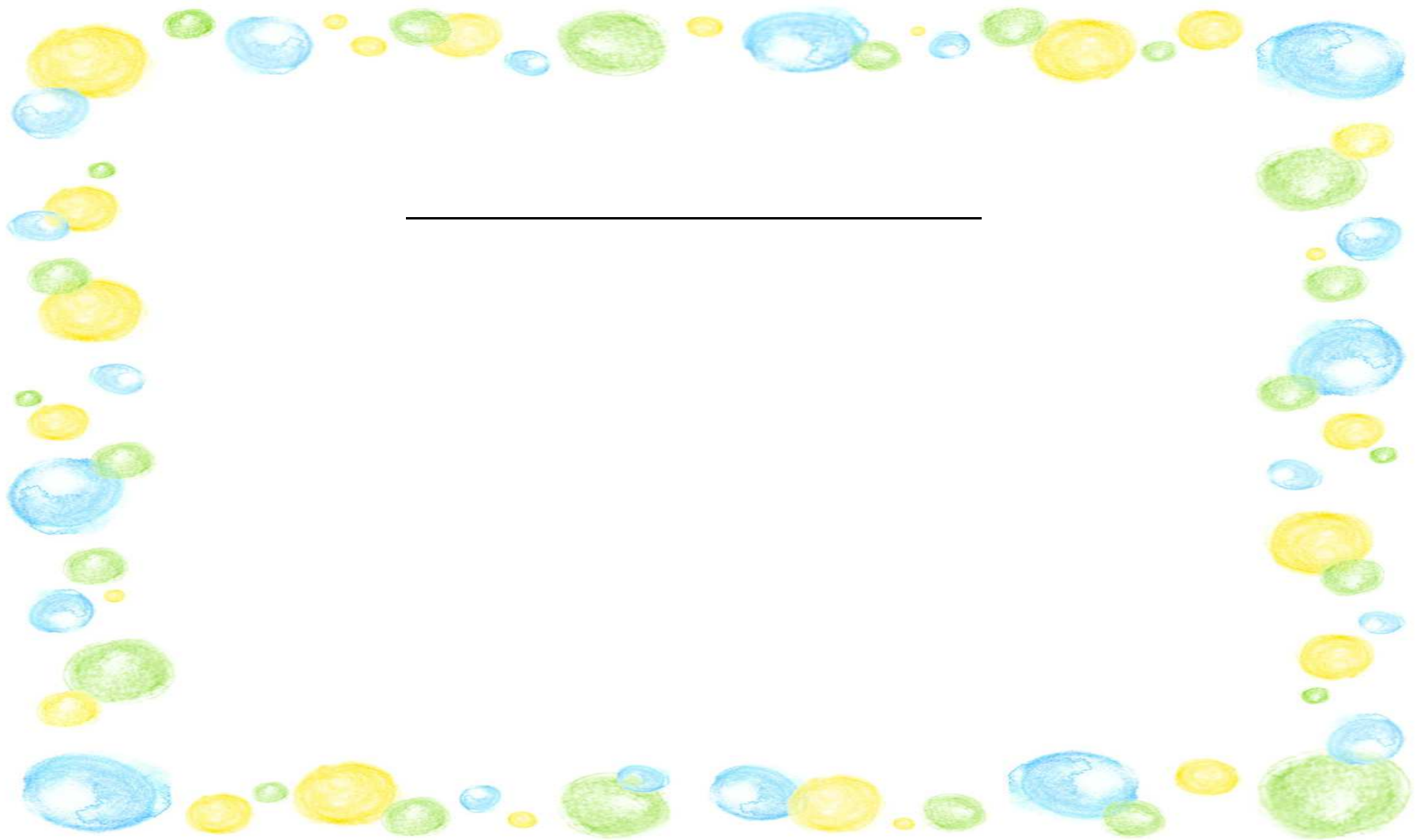
動物を飼っている人たちは、じしんが来たら、ただでさえ

どこにもとまることができません。

私はもしじしんが来て、ひなんして、動物を飼っている人が来たら、少しでもその人の役に立てるようになりたいです。

なつき





『竜之介先生、走る!』を読んで

熊本地震で竜之介先生は、人とペットを救うために、  
自分の動物病院をペット同伴ひなん所としても使えるようにしました。

自分も同じ地震にあったのに、たくさんの動物の治りょうを  
一時も休まず眠らず働き続ける行動に、心を打たれました。

りえ

『竜之介先生、走る!』を読んで

僕はペットを飼ったことがないけれど、  
ペットは家族の一員であり、  
大事なパートナーであることを改めて感じた一冊だった。  
人間も動物も命の重さは皆同じ。  
人に動物たちに寄り添う竜之介先生の姿に、心が温かくなった。

たくま

『竜之介先生、走る!』 を読んで

これはくま本地しんのときに活やくした「竜のすけ先生」のお話です。

竜のすけ先生は、自分で動物病院をやっています。

それだけでもすごいです。そして、くま本地しんがおこり、

ペットをつれた人はひなんじょに入れなくてこまっていました。

そこで竜のすけ先生は、自分の病院を「ペットどうはんひなんじょ」として  
開院し、活やくしました。「なぜペットといっしょにひなんじょに入れないのか？」

「ペットも家族」という竜のすけ先生のいけんに共感しました。

ななえ

『あみちゃんの魔法のことば』を読んで

私はこの本を読んで、手足はほとんどないけれど、  
子供のころから努力を続けるあみちゃんは、すごいと思いました。  
もし私があみちゃんなら、あきらめてしまうだろうと思うことも、  
あみちゃんは、すべてこなしていて、こんな、手足がなくても  
けんめいに生きているあみちゃんのことを知り、  
あたりまえに生きているけれど、  
私はとても幸せなんだなと思いました。

ゆき



『あみちゃんの魔法のことば』 を読んで

私はこの本を読んで、もし私があみちゃんのような体だったら

いったい何ができるんだろうと思いました。

笑顔で生きてきたあみちゃんはとてもすごいと思いました。

そして、あみちゃんの悩みに比べたら、


私の悩みなんてちっぽけなんだと改めて感じました。

かな

『あみちゃんの魔法のことば』 を読んで

あみちゃんが生きる上で大切にしてきた言葉が載っていて、  
なるほどなぁと思うものもあれば、  
言われてみれば確かに!と思うものもありました。  
挿絵もかわいくて、あみちゃんの気持ちが  
とてもよく伝わってきました。

ももえ



『あみちゃんの魔法のことば』 を読んで

あみちゃんが足だけでがんばっていて、すごいなと思いました。

お姉ちゃんのまねをして、何でもできるようになったのは、

あみちゃんのチャレンジせいしんだと思います。

わたしも、あみちゃんのように何でもチャレンジしていきたいです。

こと

『生きているシーラカンスに会いたい!』 を読んで

所々に、図やコラム、写真があって、読みやすかった。

みんなで協力して成功させよう、という

作者の人柄、信念の強さを感じた。

たくま



## 『エベレスト』 を読んで

エベレストの自然の美しさや厳しさ、歴史が  
絵も交えて、分かりやすく書かれていた。

ある登山家の言葉に、

『なぜなら、そこにエベレストがあるから』というものを  
聞いたことがある。

この本を読んで、その言葉をより一層深く感じた。

たくま



『走れ!メープル』 を読んで

このお話は、足が不自由な犬やねこに一人の人が車いすをつくる話です。

「ペットに車いす?」と思った人もいるでしょう。

しかし、ペットも人と同じよう、足が不自由な子もいます。

その人のかっている犬も足が不自由だったので、作りはじめたのです。

「ほしい」という人にざいりょうひだけ出してもらって作るのに感動しました。

ぜひ読んでみて下さい。

まよ



『走れ!メープル』を読んで

アドは、後ろ足がまひしていて走れなかつたけど、  
忠さんが犬用の車いすを作って、久しぶりに走れるようになり、  
忠さんにとっても大切に育てられました。

この話から私も、犬を飼ったら忠さんのように大切に育てて、  
ペットを幸せにしたいと思いました。

(アドは、メープルの次に飼われた犬の名前です。)

りえ





『走れ!メープル』 を読んで

お客さんにためらわずに他の人を紹介したり、  
犬の車いすの作り方を教えたりする忠さんはすごいと思いました。

みき

『走れ!メープル』を読んで

忠さんの愛犬アドがヘルニアになり、車いすを作って  
それを売るようになったというお話はとても感動しました。  
ねこやアルパカなどの車いすが、海外ざいじゅうの日本人にまで  
とどいていて、とてもやさしいなと思いました。

こと

『将棋の駒はなぜ歩が金になるの?』 を読んで

将棋の由来や歴史、将棋の世界の裏側を知ることがきて、  
とても面白かった。僕は特に歴史が好きなので、  
歴史の内容が多く興味深かった。

早速、「美濃囲い」「矢倉」を覚えたいと思った。

たくま

『わきだせ!いのちの水』 を読んで

あるアフリカの国には、汚れた水の中で生活し、  
多くの人々が亡くなっている。日本で当たり前なことが、  
外国では当たり前でないことに心が痛んだ。

少しでも『道』が見えたら、勇気をもって進んでください、という文が心に  
残った。僕も、自分のことだけでなく、  
周りのひとのことを考えれる大人になりたい。

たくま

『わきだせ!いのちの水』 を読んで

交通事故で右手にまひをを起こしてしまって、  
何かできることはないかとリハビリに通っているながら  
井戸ほりボランティアになったのは、とてもすごいなと思います。  
しかも、1986年からげんざいまで、わかい時からしてきているのもすごいです。  
きっと「人のやくにたちたい!」と思う気持ちが実ったんだと思います。

こと